三条中

自分を律し、課題に向き合う生徒の育成

～探究的な（課題解決）学習活動を通して～

（２年計画の２年次）

校長　米田　裕子

１　研究主題について

昨年度までの三年間は「自ら課題を見つけ、主体的に取り組む生徒の育成」を目標に掲げ、「課題を見つける力」や「主体性の育成」を目指してきたが、本校生徒は、与えられた課題には取り組むものの「自己管理力」や「課題に向き合う粘り強さ」に欠け、学力の二極化が浮き彫りとなった。

また、改訂の方向性の一つである「カリキュラム・マネジメント」については、「探究」を核として取り組んできたが、未だに教師主導型の課題設定場面が見受けられる。生徒の学習アンケートからも、授業中の反応、発言、質問が少ないといった積極性の低さが課題としてあげられ、学習内容が習得できていないことへの不安感や危機感をもつ自己肯定感の低い生徒が増加傾向にあるという実態も浮かび上がってきた。

そこで、今年度は、“主体的な学びを促す”ために、生徒の実態や発達段階に応じた学習方法・スキルを丁寧に指導し、「やれそうだ」といった課題に対する見方や「分かりたい」といった欲求の側面、やる気が喚起される感情の側面など、動機付けの諸側面を踏まえた学習指導の研究をし、指導力の向上に努めたいと考え本研究主題と副題を設定した。それとともに、「主体的に学習に取り組む態度」の評価はどのように行えば良いのか。「自ら学習を調整しようとする態度」と「粘り強く学習に取り組む態度」を評価するには、どのような手段が考えられるのか。各教科の特色にあった評価の仕方について研究を深めていきたいと考える。「知・徳・体の調和を図り、夢や目標の実現に向けて努力する生徒」という学校目標の達成に向け、生徒には学ぶことの意味、進歩・発展することの意味を改めて問いながら取り組んでいきたい。

２　研究のねらい

自ら課題に向き合う生徒を育てるために、一人一人の実態を踏まえ、「学び方」を指導するとともに、効果的な指導法や導入の工夫等をすることによって、授業改善を図り、探究的な学習活動を設定し取り組ませる。

３　研究仮説

生徒一人一人が「学び方」を理解し、探究的な学習活動に取り組むことにより、主体的に課題解決に向き合うことができる。

４　研究内容

(1)探究的な学習活動の工夫
(2)探究意欲を向上させる手立ての工夫
(3)学び方の指導

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者等	全体会等
4	5	第１回校内研	全体会（経営方針・研究主題の共通理解、授業開き、三条中生の「話し方・聞き方」
6	1	第２回校内研 小・中ジョイントスクール推進事業：公開授業（三条中）	
10	12	第５回校内研 授業研究（計画訪問）	
10	12	第６回校内研 授業研究（要請訪問） ２学年　国語科 授業者　教諭　佐々木　大輔	

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
8	21	第３回校内研　心肺蘇生・AED に関して研修 講師　八戸消防署尻内分遣所職員
9	22	第４回校内研　三条中生の「話し方・聞き方」に関する生徒アンケートの考察①
1	17	第７回校内研　三条中生の「話し方・聞き方」に関する生徒アンケートの考察②
2	14	第８回校内研　今年度の成果と課題 ～来年度の校内研究に向けて～
3	13	第９回校内研　三条中生の「話し方・聞き方」に関する生徒アンケートの考察③

６　研究の成果

(1) 「要請訪問」や「初任者実地研修」を参観することにより、他教科の先生方からの忌憚のない意見をいただくことや授業に対する意見交流を行うことなどによって、生徒のために授業力を向上させようという機運を高めることができた。

(2) 「三条中生の『話し方・聞き方』」は、毎学期末に行い、本校生徒の課題を把握する機会となっている。また、小中ジョイントスクールの中でも話題に挙げ、小学校の先生方と共通理解しながら進めることができている。

(3) スコラ手帳を活用し、スケジュール管理をしようという生徒を育てることや、マイバトンノートに行事ごとに感じたこと、学んだことを記入することによって自分の気持ちを整理すること大事にしようとする生徒を育てることができた。

７　研究の課題

(1) 次年度は学校目標が変更される予定であり、その学校目標にあった研究主題や副題を考えていく必要がある。本校の方向性に見合った校内研を行っていけるよう、研修部を中心に精査していきたいと考える。

(2) 今年度も消防署の方、赤十字の方をお招きして「防災教育」に関わる授業を行ったが、再来年度、本校が領域の発表校（「総合的な学習の時間」・「視聴覚」・「特別支援」）となっているため、次年度は校内研に位置付けて行うことも視野に入れる必要がある。

(3) 教科、領域に関わらず、今年度は職員会議の資料等で本校職員が学んできたことを全体に周知する機会をつくることができなかった。誰がどのような研修に参加しているのかを確認すること、研修会の資料を預けていただき、情報提供することを欠かさず行いたいと考える。

（記入者　佐々木　大輔）